



小学生・中学生の皆さんへ

2022年[令和4年]

9.28

No.149

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>



あらかわ区報

ARAKAWA KUHO JUNIOR

ジュニア

胡粉、石臼、牡蠣殻

汐入でかつて
発展した産業の
足跡をたどる



「胡粉」という言葉を聞いたこと
がありますか？ 胡粉は、牡蠣の
殻から作る白い色の絵の具で、日
本画や人形などに使われています。
南千住八丁目の汐入地区では、
江戸時代から大正時代ごろにかけ
て、この胡粉が盛んに作られてい
ました。そこで今回、荒川ふるさと
と文化館の野尻さんの案内で、第三
中学校のジュニア記者たちが汐入
にある胡録神社を訪問。神社が所
蔵している、胡粉にまつわる襖絵
を見学しました。襖絵には何が描
かれているのか!? ジュニア記者
と一緒に見てみましょう。



新型新型コロナウイルス感染症予防のため、取材時は全員がマスクを着用していますが、撮影のためにマスクを外している場合があります。

問い合わせ

あらかわ 荒川ふるさと文化館
☎(3807)9234

次は11月に発行する予定です

襷絵を読み解く



1 牡蠣殻の山は胡粉作りの証

汐入の地中からは、大昔に埋もれた牡蠣殻が大量に採れました。牡蠣殻は、農作物を栽培するうえでは不向きなものとされていましたが、加工されることによって、最高級の胡粉に生まれ変わったのです。

胡粉作りの工程は①牡蠣殻を掘り起こして庭で干す②牡蠣殻を洗う③つき臼でつき、巨大な石臼で粉碎してすり潰す④水を注ぎながら石臼で何度も挽き、牡蠣殻の粉の濃い液体を作る⑤液体を板の上に載せ、日光で乾燥させて粉にする⑥商標を刷った小袋に詰め出荷する、というとても手間のかかる作業でした。

襷絵には真っ白な牡蠣殻の山が描かれています。汐入の胡粉は、非常に品質が良く、特産品として高値で販売されていました。

2 江戸で大好評の「汐入大根(二年子大根)」

汐入大根は、汐入地区で栽培されていた、細長い形が特徴の大根です。汐入地区を開発した高田嘉左衛門が栽培を始めたと伝えられています。汐入大根は、江戸の料理屋向けの野菜として人気がありました。



3 各家庭に船着場が!

汐入の対岸(今の足立区)には野菜を扱う市場があり、「やっちゃん」と呼ばれていました。汐入大根などの野菜を納めるときには船も使われており、川沿いの農家には、やっちゃんばと行き来するための船着場がありました。

境内には胡粉を挽いた石臼が置かれています。一般的な石臼は直径30cmほどですが、胡粉用の石臼は直径60cm前後と大きいものでした



▲胡録神社の由緒が刻まれた記念碑。汐入の歴史を後世に伝えたいという当時の人々の思いが込められています



汐入の歴史っておもしろい!



▲野尻さんの解説を真剣な表情で聞くジュニア記者。汐入の歴史に興味津々!



▲胡粉の実物を見せてもらったジュニア記者は、「片栗粉みたいにサラサラ!」と感動

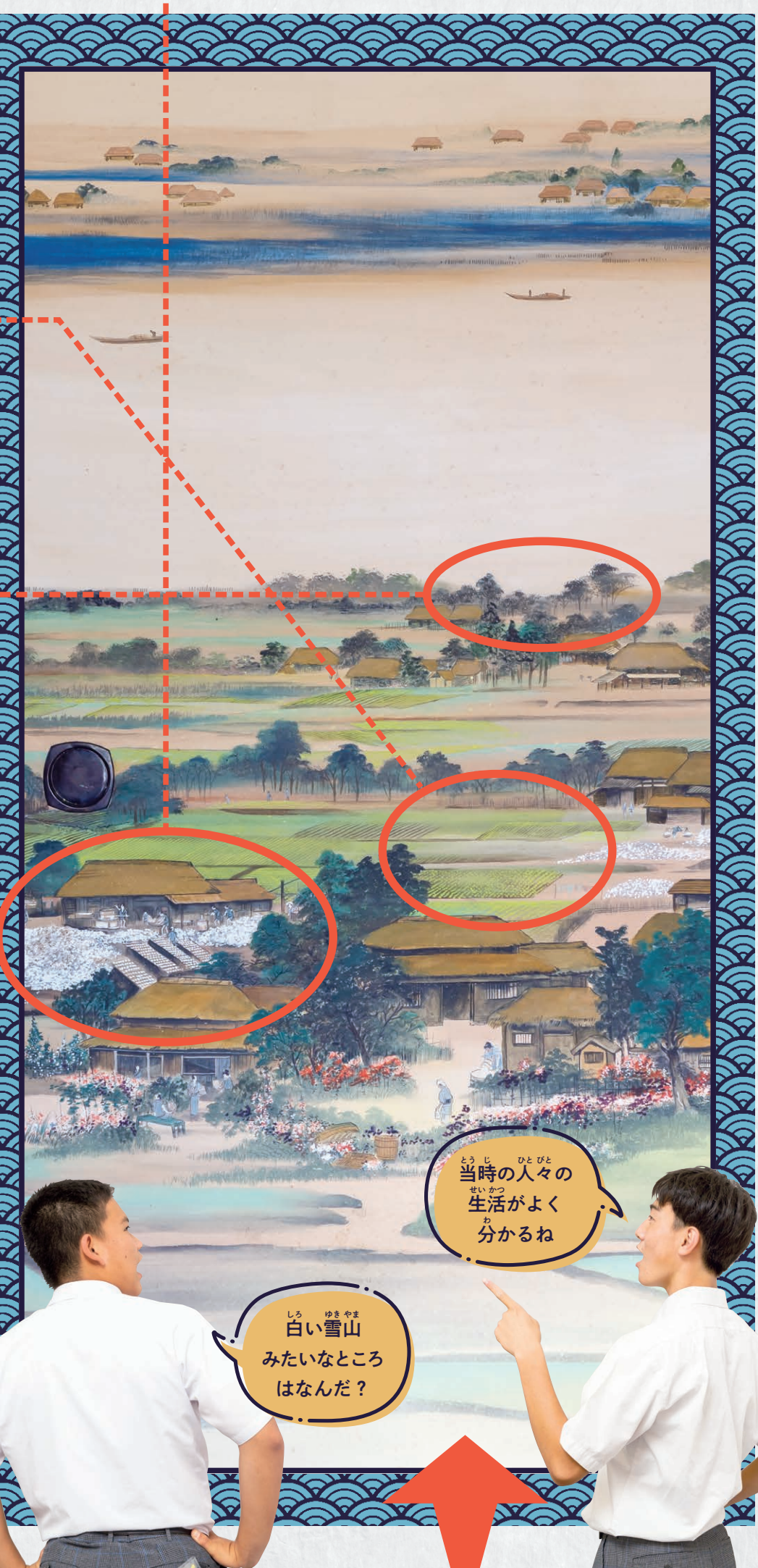
※取材で使用した胡粉は汐入産ではありません

胡録神社とは?



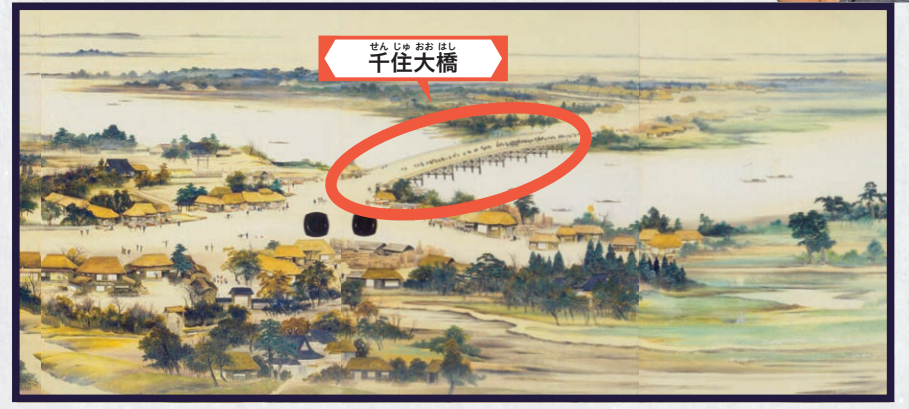
▲汐入地区の再開発のため、平成15年(2003)に境内地を現在の場所に移動しました

戦国時代、川中島の合戦後に越後の上杉謙信の家臣である高田嘉左衛門とその同志の高田氏、竹内氏、杉本氏らが汐入に定住し、村の平和を祈願するため、永禄4年(1561)に創建しました。本殿(荒川区登録有形文化財)は嘉永5年(1852)9月19日に修造されたものです。

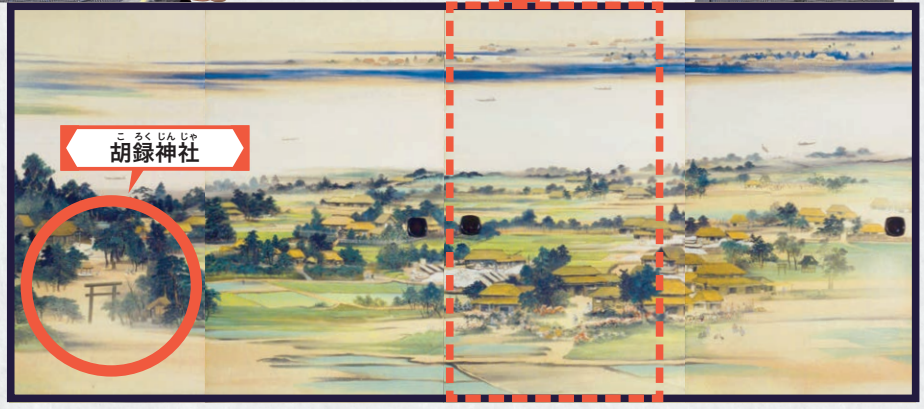


当時の人々の生活がよく分かるね

白い雪山みたいなところはなんだ?



千住大橋



胡録神社

胡録神社が所蔵する襷絵 (千住大橋から汐入部分)

取材を終えて

どうしてマンションが建ち並ぶ街なのに石臼が置いてあるのか、ずっと不思議に思っていたのですが、今日、その謎が解けたのでスッキリしました。汐入小学校に6年間通っていたのに、敷地内に石臼があることは知りませんでした。友達にも教えたいと思います。(間中さん)

石臼の謎が解けて嬉しい!

間中 新太さん

寺澤 拓海さん

▲「この襷絵は昔の汐入の生活を知ることができる、とても貴重な資料です!」と野尻さん

毎年、初詣で胡録神社にお参りしているけど、詳しい歴史は知らなかったの、いろいろ発見や驚きがあったので、楽しかったです。汐入の歴史が刻まれた記念碑に友人と同じ苗字を見つけたときは、子孫かも!? とワクワクしました。(寺澤さん)

石臼はここにもあります
荒川ふるさと文化館
南千住 6-63-1 ☎(3807)9234

胡録神社に残る襷絵から探る 胡粉の秘密

今回訪問した胡録神社の境内には、大きな石臼があります。どうやら、昔の汐入地区には、あちらこちらに石臼があったようです。それはなぜでしょうか。答えは襷絵に隠されています。ジュニア記者と一緒に調べてみましょう。

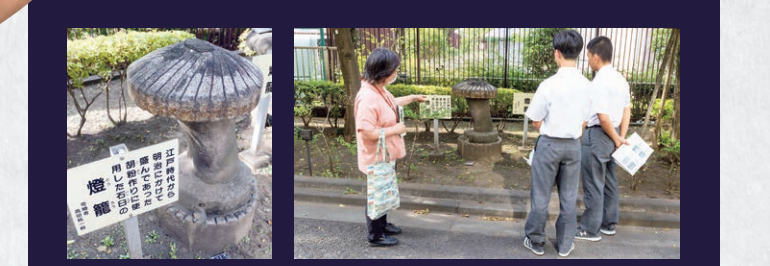


胡録神社には、普段は公開されていない10枚の貴重な襷絵が保管されています。これらは、昭和27年(1952)に汐入に滞在していた画家・若原天応が、調査を行い胡粉作りをしていたころの汐入の風景を想像して描いたものです。今回は特別に、この襷絵を見せてもらいました。

こんなところに石臼が!?



▲胡録神社の近くにあるマンションの入口に、石臼の一部が埋もれています。汐入の歴史を伝えようと置かれたものかもしれません



▲汐入小学校で石臼のオブジェを発見! 胡粉作りの歴史の象徴として、石臼が保存されています

汐入には、胡粉の材料となる良質な牡蠣殻が採取できる環境だけでなく、胡粉を生産する方々の高い技術がありました。良質な「汐入ブランド」の胡粉は、京都や水戸の城下まで広く知られていました。

▲胡粉袋版木とその拓影 / 胡粉作りの中心役割をはたしてきた、高田七兵衛家に伝わる版木。胡粉を出荷するときの小袋に商標を刷るために使われました

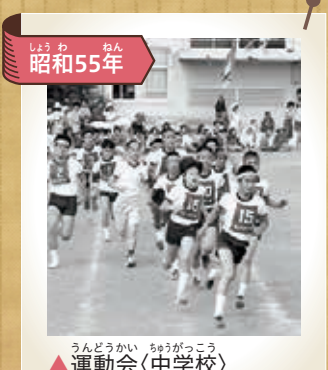
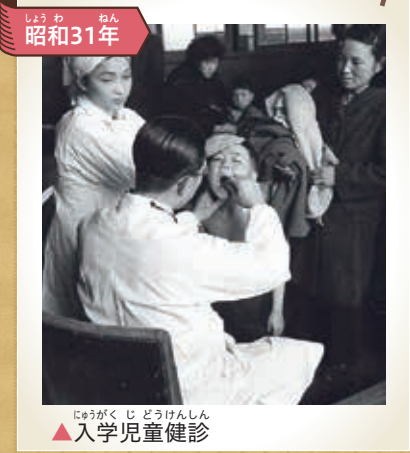
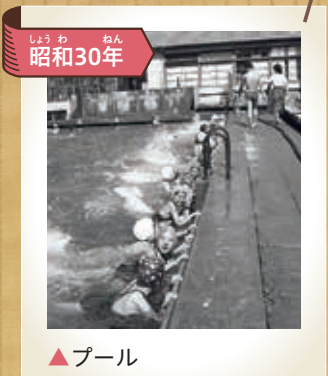
▲犬張子 / 安産祈願、出産祝いにも贈られる、江戸の郷土玩具。桐壱(桐のおがくず)のりを混ぜて粘土状にしたものを、人形生地に、胡粉を塗りのり重ねて輪郭を作ります

胡粉豆知識

あの日、あのときに
タイムスリップ!!
昔の荒川区を
見てみよう
アニバーサリー 90th
~Anniversary

荒川区は昭和7年(1932)に誕生し、今年で区制制定90周年を迎えました。昭和・平成・令和という時代を通して、荒川区の様子は大きく変わりました。

そこで今回、昔の学校生活の様子を写真で紹介いたします。普段みんなが過ごしている学校生活との違いはあるかな？



このほかの昔の写真は、荒川区ホームページ内の「あらかわ思い出写真館」で紹介しているよ。みんなも見てみよう！

Topics

二峡小の手塚さんが、
わんぱく相撲女子東京都大会で
優勝しました

6月26日、第二峡田小学校4年の手塚咲葵さんが、わんぱく相撲女子東京都大会で優勝し、全国大会に東京代表として出場することを高梨教育長に報告しました。

手塚さんは、「全国大会でも力を発揮できるようベストを尽くします」と話し、高梨教育長は「東京都代表として、自信を持って頑張ってきてください」と応援のメッセージを伝えました。

なお、全国大会は、8月21日に沖縄県浦添市で開催され、手塚さんは、ベスト16に入賞しました。



▲高梨教育長に報告する手塚さん

あらかわ
今昔ものがたり
[あらかわの歴史と伝説]

その139 六大学野球、尾久で開催!?
~幻の球場・尾久グラウンド~

野球が日本にやってきた！ 今年は日本に野球が伝わって150年の記念の年なんだって。

150年前は、明治5年(1872)。このころは、より進んだ海外の知識を子ども達に学ばせようと、欧米から先生を呼んでいったんだ。そのうちの一人、ホーレス・ウィルソン先生が第一番中学(後の第一高等学校)の生徒に教えたことから日本の野球の歴史は始まったんだって。あの正岡子規さんも野球が大好きで、「久方のアメリカ人のはじめにしベースボールは見れど飽かぬかも」といった歌を残しているよ。

主将が名付けた「野球」最初は「ベースボール」と呼んでいただけで、明治27年(1894)に第一高等学校(後の東京帝国大学)の野球部主将が「野球」と訳したんだ。当時、一高はすごく強かったけど、早稲田や慶應も力をつけ、野球は日本を代表するスポーツになっていったんだよ。

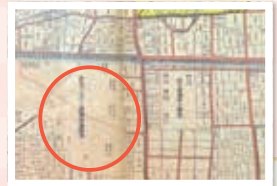
尾久に球場が誕生！ 大正11年(1922)5月、尾久にあらかわ遊園が完成した。そして12月、あらかわ遊園の南に本格的な球場が誕生し

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234
野尻さん

たんだ。東京野球倶楽部が、東京ドームの面積と同じくらいの土地を借り、寄付を募って理想的な球場を造ったんだよ。(『新興の尾久町』)

幻の球場・尾久グラウンド 東京野球倶楽部は煉瓦工場やあらかわ遊園を創った広岡勘兵衛さんたちが作った団体で、建設した尾久グラウンドには立派なスタンドもあったんだ。このころは東京帝国大学(今の東京大学)野球部がここで練習をしていたんだよ。また、大正14年(1925)には東京六大学の公式戦が行われ、米国女子野球チームも試合をしたんだってさ。当時の東京でも本格的な球場だったんだね。残念ながら、日本の経済の悪化と同時に経営難になり、昭和2年(1927)に閉鎖されてしまった。でもね、たった数年だけ野球の歴史に残るグラウンドだったんだよ。

今年の夏、日本野球150年を記念して、南千住にあった東京スタジアムと尾久グラウンドが、野球にまつわる聖地・名所150選に認定された。今度、グラウンドがあったという西尾久七丁目児童遊園あたりを探検してみてね。



東京都北豊島郡尾久町全図(満光寺蔵)